



琵琶湖の環境と保全についての授業が開始

テーマ  
Theme

琵琶湖の日の活動（琵琶湖について知ろう、琵琶湖の環境を守るためにできることを見つけよう。）

学校・園名  
School name

甲賀市立多羅尾小学校

講師等  
Lecturer etc.

滋賀県琵琶湖環境部 琵琶湖再生課

実施日  
Date

令和 2年 7月 1日

教科等

生活科 理科

授業  
Class



7月1日の「びわ湖の日」に合わせ、多羅尾小学校（全校児童7名の小規模特認校）で全児童を対象に連携授業が実施されました。授業は「琵琶湖の環境・保全について」をテーマに、県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課員を講師として、写真の提示や3択クイズ形式の問題を出題しながら、その都度解説を加える形でテーマに沿った話がされました。

問題は、「琵琶湖はどうして『びわこ』という名前なのかな?」、「琵琶湖に浮かぶ4つの島の中で、学校がある島はどこかな?」、「667年～672年に大津にあった家は誰の家かな?」、「琵琶湖の湖上交通をもとに生まれたことわざはどれかな?」、「この仕掛けは何のためにあるのかな?」（エリの写真提示）、「名前に『ハマ』がつく植物は、もともとどこに住んでいたのかな?」（ハマゴウ、ハマエンドウの写真提示）、最強最悪の外来植物（ナカエツルノゲイトウ）についてあてはまることはどれかな?」などでした。滋賀の文化と歴史、琵琶湖と自然環境など、多方面からの出題と解説でしたが、子どもたちは熱心に話を聞くことができました。

授業の終盤では、スライドを使いながら「水のおはなし」と題した講話がおこなわれました。なぜ水は大切なのか、汚れた水をもう一度魚が住める水にするためにはどれぐらいの水が必要なのか等についてでした。

授業は、「環境を守るために私たちにできることを考えよう」という課題を投げかける形で終わりましたが、琵琶湖から地理的に遠く離れている多羅尾小学校の子どもたちが、「びわ湖の日」の当日に琵琶湖の保全と環境について考えられた意義は大きく、湖国滋賀に興味関心をもつ良い機会となりました。

感想  
Impression

児童より Impression from

- <授業後の感想に見られる児童の言葉～>
  - ・貝の中に卵を産み付ける魚がいることを知りました。
  - ・きれいな花でも、外来種で池を埋め尽くしてしまうことにびっくりしました。
  - ・琵琶湖の水が汚れないようにするために、近くの川や家のまわりのごみを拾ったり、ごみをごみ箱にちゃんと捨てるようにしたいです。
  - ・水をむだにしないために、水道の蛇口をしっかり止めたいです。
  - ・ヨシが昔はアシと呼ばれていたが、縁起が悪くて変わったことをはじめて知りました。

学校より Impression from

- コロナの影響でお忙しい中、急な時間の変更にも柔軟に対応していただけてよかったです。また、事前に当日に使う資料のデータを送っていただけたので、準備もスムーズに進めることができました。当日は、パワーポイントをもとに低学年にもわかりやすいクイズ形式で進めていただけたのでよかったです。

講師より Impression from

- 普段琵琶湖をあまり目にする事のない子供達に対して、わずかではありますが、琵琶湖に関する知識を伝えることができました。子供達にとって、琵琶湖や環境の大切さについて考える良い機会となっていればうれしいです。
- (子供たちへ) 1時間ではありますが、皆さんとお話できて楽しかったです。琵琶湖や環境のことを大切に考える人になってください。